

『博聞強記』

画家のティエポロは、何を記録したのか。

ティエポロは、スマートフォンに何を記憶するだろうか。

インターネットは、心を記録するものである。

記録したものを、自分の言葉で伝えていこう。

PSPED BITS

「アペレスの工房のアレクサンドロス大王とカンパスペ」
ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ (1740)



佐谷宣昭 Nobuaki Satani

1972年生まれ。九州大学工学部建築学科卒業。2000年九州大学大学院人間環境学専攻博士課程修了、博士(人間環境学)。翌月起業。株式会社パイブドビット社長CEO。明日の豊かな情報生活に貢献したいとの想いから、「情報資産の銀行」の必要性を説く。官公庁や都市銀行、小売業など3067の事業者向けに情報資産プラットフォーム「スパイラル(R)」を提供中。

株式会社パイブドビット
東京都港区赤坂2丁目9番11号
03-5575-6601(代表) <http://www.pi-pe.co.jp/>

インターネット対応の試作機が披露されていて、レシビを検索したり、閲覧板を閲覧することができた。同じ頃、インターネット対応の電気ポットが注目を集めていた。インターネットを使って電気ポットの使用状況を遠隔監視し、自宅にいる高齢者の安否を確認するというもので、定期的にお茶を飲む高齢者の習慣に着目した安否確認の手段として画期的なアイデアだった。

いよいよ普及し始めたモノのインターネットだが、その安全性はどうか。実は冒頭のハッキング話には後談がある。ブルーポイント社の発表の1週間後にシマンテック社がその内容を否定したのだ。今回の迷惑メールの犯人は冷蔵庫では無く、パソコンのウイルス感染による典型的なハッキングが原因だとか。両社はセキュリティ製品を販売する競合関係なので、各々の発表の背景を気にしなくもないが、いずれにしても、モノのインターネットのセキュリティには気を配っておくべきだろう。

年明けにショックなニュースを目にした。迷惑メール対策などのセキュリティ製品を手がける米国のブルーポイント社が1月16日に発表した記事によると、昨年末から年始にかけて、テレビや冷蔵庫などの家電から75万通の迷惑メールが送信されていたそう。迷惑メールは悪徳業者がパソコンを使って送信するものだと思いついていたが、冷蔵庫と聞いて驚いた。技術的に可能なことは解るが、何も冷蔵庫を使わなくても、と。この記事は、今後の成長が期待されている「モノのインターネット」が大規模にハッキングされたとあって注目された。

そういえば、最近「モノのインターネット」の記事を目にすることが多い。この数年の間にテレビなどの家電を購入した人は、インターネット対応と宣伝された商品を目にしたと思う。これらの家電では、内蔵ソフトウェアを更新したり、ビデオ動画をダウンロードするなどの機能にインターネットが活用されている。今は、自動車、電車、飛行機などの乗り物や、冷蔵庫、洗濯機、医療機器などのモノがインターネットに繋がりが、これらのモノが自律的にデータを送受信する「モノのインターネット」の時代が到来するというわけだ。

いかにも新しい時代の香りが漂う「モノのインターネット」だが、実はそのアイデアは新しいものではない。冷蔵庫について言うと、今から15年前の1998年頃の展示会には既にイン

『モノのインターネットの安全性』